

第9回 仙台市総合計画審議会議事録

日 時	平成23年1月20日（木） 15：30～17：00
会 場	仙台市役所2階 第一委員会室
出席委員	足立千佳子委員、阿部一彦委員、石川建治委員、内田幸雄委員、江成敬次郎委員、大草芳江委員、大村虔一委員、岡本あき子委員、小野田泰明委員、菊地昭一委員、小松洋吉委員、佐竹久美子委員、鈴木勇治委員、鈴木由美委員、高野秀策委員、西大立目祥子委員、西澤啓文委員、庭野賀津子委員、針生英一委員、樋口稔夫委員、増田聡委員、水野紀子委員、宮原育子委員、柳生聡子委員、柳井雅也委員〔25名〕
欠席委員	阿部初子委員、大滝精一委員、菅井邦明委員、永井幸夫委員、間庭洋委員〔5名〕
事務局	山内企画調整局長、大槻企画調整局次長、白川総合政策部参事、梅内総合計画課長、遠藤総合計画課主幹、柳津総合計画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 仙台市基本構想・基本計画（答申）案について (2) その他 3 閉会
配付資料	1 仙台市基本構想・基本計画（答申）案 2 答申素案からの修正（案） 3 仙台市基本構想・基本計画（答申）のポイント

1 開会

大村虔一会長

それでは、定刻になりましたので、ただいまから第9回仙台市総合計画審議会を開催いたします。

最初に、本日の議事録署名委員を指名したいと思います。前回、大草委員にお願いいたしましたので、五十音順で、岡本委員にお願いしたいと思います。

岡本委員

はい。分かりました。

大村虔一会長

どうぞよろしくお願いいたします。

続いて議事に入ります前に定足数の確認を行います。事務局から報告をお願いします。

梅内総合計画課長

始めに、今回が最終回でございますけれども、資料の調整に時間がかかりまして、事前送付ができませんでした。この点についておわび申し上げます。

本日の定足数でございます。本日は25名のご出席を予定しており、増田委員が少し遅れるということですので、現在24名の方にご出席いただいております。定足数を満たしていることをご報告申し上げます。

続きまして資料の確認をさせていただきたいと思います。お座席に、本日の座席表、次第、資料一覧表、資料1の答申案、前冊子からの修正点の案の資料2、そしてポイントをまとめました資料3がございます。それと前回まで事務局でお預かりしております資料と議事録をつづりましたファイルを置かせていただいております。資料に過不足ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

事務局からは以上でございます。

2 議事

(1) 仙台市基本構想・基本計画（答申）案について

大村虔一会長

それでは議事に入ります。

本日の議題は、仙台市基本構想・基本計画（答申）案についてでございます。

前回の議論を受けて、答申案が出されております。始めに事務局から説明をいただきたいと思います。

よろしくお願いします。

梅内総合計画課長

それではご説明を申し上げます。

12月末の審議会でお示ししました答申素案から、審議会でのご議論、また、その後ご欠席の委員からいただきましたメール等でのご指摘、あるいは仙台市議会からのご意見を踏まえまして、加筆、修正、文言、文脈の整理等を行っております。庁内関係各局との調整を図りまして、25日に予定しております答申に向けて最終の修正の内容を固め、本日答申案としてお示ししているものであります。

以下、資料2に従いまして修正点につきご説明しますけれども、主な修正点といたしまして、今月11日に宮城県から公表されました国勢調査の速報値を踏まえました人口推計の見直しを行ってございます。これを除きますと、新項目の追加はございませんので、図書館に関する2項目の記載を統合した部分、あるいは前回のご指摘からで、クリエイティブ産業に関する記載を2項目に分割した内容となっております。

それでは、資料2「答申素案からの修正（案）」に従いましてご説明を申し上げます。

資料2の左側が、答申案のページを振ったものでございます。その右側は今回の答申案の内容、前回の答申素案の内容、そして、備考の欄に修正の理由を記載しているものでございます。

修正案の1ページの記載でございます。基本構想の1ページの部分で、審議会からの現在の厳しい時代という認識が重要だとの指摘を踏まえまして、表現に加筆をしてござ

います。

同じページで市民力につきましても、審議会で多様なご意見が出ましたことから、表現を修正してございます。

基本構想 2 ページ、都市像で学びの都でございます。前回の審議会におきまして、庭野委員からご指摘がございました芸術文化、あるいはスポーツに関する用語法、あるいは言葉の並びの統一等とのご意見を踏まえまして全体を見直してございますけれども、その結果、全体のバランスから前回ございました芸術・スポーツの例示を削除いたしまして、全体に調整をかけたものでございます。

続きまして、基本計画に関する修正でございます。

最初に人口推計を修正しております。答申案の 4 ページをご覧ください。4 ページから基本計画に関する答申案が始まってございます。この「第 1 章 総論」の 2 が計画期間における時代認識となっております、(1) 人口推計の部分でございます。ここにつきまして、先程申し上げました宮城県からの国勢調査速報値に基づきまして 10 月 1 日現在の人口が公表になりましたので、これを基に人口推計の見直しとその内容を修正してございます。推計の方法、推計の考え方につきましては、中間案でお示ししましたコーホート要因法によります中間的な推計を用いるという考え方を踏襲しております。速報値によりますと、10 月 1 日の本市の人口が 1,045,902 人と、それまでの住民基本台帳等に基づく推計人口よりも上方修正されました。9,000 人ほどの大きな上方修正でございます。これに基づきまして最新のデータにより、再集計をかけたものでございます。その結果、お示ししました平成 27 年頃にピークを向かえ、その後緩やかに減少に転じると見込んでございます。人口の構成等につきましては、期間末の 32 年度には高齢人口が 25 パーセント、4 分の 1 を超えるという見込みに関しては中間案と変わりはありません。今後、国から正式な国勢調査の結果の公表があるかと思っておりますけれども、今回の総合計画ではこの速報値を基にした推計内容で全体を確定させてまいりたいと考えてございます。

同じく答申案 5 ページの課題認識の のところにも人口に関する記載がございますけれども、ここも人口推計に関する表現に合わせまして修正をいたしております。

続きまして、同じく 5 ページの「(3) 重視すべき視点」の「 支え合いの重視」に関する修正でございます。前回審議会におきまして、皆様から児童虐待など最近の課題にふれるべきではないかというご意見がございましたので、例示を削除して一般的な表現に直すなど、表現を修正したところでございます。

続きまして 6 ページの「 3 基本計画の位置づけ」でございます。これにつきましても、厳しい時代認識をという、先程申し上げました審議会からの指摘を踏まえまして、表現を修正しているところでございます。

次の修正点、9 ページでございます。「第 2 章 重点的な取り組み」の第 1、学びに関する記載でございます。前回 12 月の審議会におきまして、大草委員や大滝委員から学都における科学の要素等を強調すべきではないかとのご意見をいただきましたことから、加筆を加えたものでございます。

続きまして 11 ページ、支え合いに関する記載でございます。前回の審議会では鈴木委員

からいただきました社会性を身につけるための環境整備が重要であるというご意見、また、水野委員からいただきましたネット社会の功罪のマイナスの部分につきましても言及が必要なのではないかとのご意見がございましたので、修正を加えてございます。

次の修正点、16 ページでございます。活力にかかる分野の農業などの関係でございますけれども、前回 27 日の審議会で、高野委員や針生委員からご指摘がございました、食品加工等の重要性についてのご意見、あるいは針生委員や大滝委員からいただきましたクリエイティブ産業をもっと広く見るべきではないか、あるいはその対応内容をきちんと踏まえて表現すべきだというご指摘がございましたので、この 2 か所について修正を加えてございます。

次の修正は 21 ページでございます。経営方針の地域政策に関する分野で、ここでは市役所関連の地域に対応する区役所の見直し、あるいは市役所本庁との関係といった組織の見直しということから、記載を整理し、簡略化したものでございます。

続きまして、26 ページの分野別計画の修正でございます。冒頭のリードの部分でございますが、答申素案におきまして体系を見直しました。二つの区分というところは変えなかったのですけれども、その下にかかる体系を見直しましたことから、都市像に関連性を持たせるという内容に合わせまして表現を修正してございます。

続きまして、29 ページでございます。「多様な学びの拠点の充実」に関わる記載でございます。前回の審議会で岡本委員から、この部分について施設ごとの表記になっているので整理してはどうかとのご意見がございましたので、図書館に関する記載を統一する、あるいは生涯学習施設の表記に関して整理する等、数点の修正を加えてございます。

また、32 ページの教育環境づくりに関する記載でございます。こちら、審議会で岡本委員からいただきました、「早寝・早起き・朝ごはん」といった分かりやすい表現を計画にも取り込むべきではないかとのご意見をいただきましたので、教育委員会と調整しまして、記載の修正を加えてございます。

続きまして、33 ページをご覧ください。先程申し上げました、庭野委員からいただきました文化芸術あるいはスポーツなどの言い回し、用語の順番について整理をすべきではないかという意見をいただきましたので、体系につきまして、前回の素案ではスポーツが先、文化が後でございましたけれども、それにつきましても用語法と同様、文化が先、スポーツを後に置き換えまして、表題の記載を修正してございます。

続きまして、39 ページ。「(2) 災害に強い都市づくり」の部分でございますが、前回の審議会で阿部一彦委員からいただきました、災害弱者の例示に障害者も加えるべきではないかという意見から、その部分に加筆をしているところでございます。

次に 45 ページでございます。「明るく元気に育つ環境づくり」でございますけれども、前回の審議会におきまして、庭野委員からいただきました、障害児への児童クラブの役割をとということが少し混同してしまうのではないかと、表記を整理すべきではないかとのご意見をいただきましたことから、ここについて修正を加えたものでございます。

また、46 ページでございます。柳生委員からご指摘ございました育児講座についても

言及してほしい、あるいは岡本委員からいただきましたワークライフバランスの視点を加えてほしいなどの意見を踏まえまして、表記を加筆あるいは修正したものでございます。

次に 50 ページでございます。27 日に阿部一彦委員からご指摘ございました「ピアカウンセリング」という表記を「ピアサポート」に修正してはいかがかといったご意見でございましたので、その部分を修正したものでございます。

次に、まちづくりに関します 57 ページの修正でございます。27 日の審議会で西大立目委員からいただきました老朽建物に関する記載をもう少し明確にすべきではないか。あるいは、表記はないかというご意見がございましたことから、ここについて修正を加えているところでございます。

同じく 58 ページでございます。西大立目委員からいただきました、土地区画整備事業を今後も積極的に行うと誤解されないよう、表現を適切にすべきではないかというご意見がございましたので、この部分に修正を加えているものでございます。

次の修正点、60 ページでございます。こちらは市議会の議論でございました、既存鉄道の機能強化といった表現についてもっと分かりやすくすべきではないかとの意見がございまして、今年度策定しました仙台市都市交通プランと整合をとりまして、表記を修正しているところでございます。

続きまして、63 ページでございます。こちらにつきましても、議会から居住促進の視点、人口減少に伴って一層居住促進の視点が重要ではないかとの意見がございました。これが、修正を加えた点です。あるいは、前回の審議会で庭野委員からいただきました、プロスポーツに関する記載を分かりやすくすべきではないかといったご指摘、また宮原委員や岡本委員からいただきました広域連携につきまして、踏み込んで記載すべきではないかとのご意見がございましたので、このページ内で修正を行っているところでございます。

続きまして、64 ページでございます。前回の審議会で大滝委員からございました、外国人留学生についてまちづくりに生かす視点が重要ではないかといったご意見、また、宮原委員からいただきました、都市機能を結ぶものを東西都市軸に限定した記載になっているのは適切かといったご意見がございましたので、この部分を修正してございます。

続きまして 66 ページでございます。前回の審議会で間庭委員からご指摘がございました、クリエイティブ産業といいますと現在では建築設計ですとか音楽など幅広い分野が入っており、そういったものを踏まえるべきではないかといったご意見、あるいは針生委員からいただきましたクリエイティブ産業の定義に関するご意見を踏まえまして、文言を修正するとともに、クリエイティブ産業自体の振興という点と、既存産業とクリエイティブ産業のマッチングの促進という 2 項目に分割、整理したところでございます。

同じページで大滝委員からご指摘がございました、企業誘致につきまして国内だけではなく、国外からの誘致にも言及すべきではないかといったご意見を踏まえまして、修正を加えてございます。

67 ページ。前回の審議会で高野委員や針生委員からご指摘ございました農商工連携、あるいは六次産業化の視点の重要性などのご意見を踏まえまして、加筆、修正をしてい

るところでございます。

次に区別計画でございます。区別計画は中間案から前回の素案で全て修正点を出したということでございまして、一つは国勢調査の速報値に基づきます人口、世帯数の修正を行ったところでございます。この表記につきまして、今回使用します数値が宮城県発表の速報値でございまして、今後国から発表されます確定値とのズレ等を勘案いたしまして、表記の単位をこれまで人単位でございましたけれども、全市の人口推計に合わせまして千人単位に変更したところでございます。

また、前回の審議会におきまして、菊地委員からご意見ございました、マンション単位の地域コミュニティに関する言及が区ごとに必要なのではないかとのご意見ございましたので、青葉区、宮城野区、若林区、太白区にかかる記載について修正を加えてございます。その他、区別計画につきましては、分野別計画等の表記に合わせまして、全体的に細かい表現を修正しているところでございます。

その他、全体にわたりまして、用語法などの表現あるいは用語の順序の統一を図ったところでございます。順序等につきましては、一部文脈に応じまして変更を加えていない点もありますので、この点ご了承いただければと存じます。

前回の審議会等で多くご意見いただきました、分かりやすい表記に留意すべきというご指摘でございますけれども、これにつきましては答申ということでございますので、これを議案といたしまして市議会から議決をいただきました後、冊子にする中で表やグラフ、写真、イラストの使用、また、合わせてつくりますパンフレットの構成の工夫など、できるだけ努力したいと考えているところでございます。このような冊子の作成にしまして、今後も委員の皆様にご相談させていただく場合があると存じますので、その場合はどうぞご協力よろしくお願ひしたいと思ひます。

資料2に關します修正の内容については以上でございます。

続きまして、資料3をご覧ください。ただ今、ご説明を申し上げました修正点を反映した本日の答申案に基づきまして、ポイントをまとめたところでございます。総合計画の期間末が2020年でございますので2020と表記してございますけれども、目標といたしまして、四つの都市像を実現した先にある「ひとが輝く杜の都・仙台をめざして」ということでこれを考えました。人口・経済・環境・財政などの制約が高まり、仙台でも急速な高齢化や人口減少が展望される厳しい時代が次の10年ではないかと思われるところでございます。これまで強調してまいりました仙台の市民力、都市像にも関連いたします四つの都市個性を生かしながら、質の豊かさを高める都市づくりに向け、市民の知恵と市民との協働による都市運営システムの変革が重要だと考えており、これを推進してまいりたいと考えてございます。これによりまして、東北を支え、未来に希望をつなぐ「誰もが心豊かに暮らし続ける『ひとが輝く杜の都』」を実現してまいりたいと考えてございます。

今回の特色あるいは強調すべき点といたしまして、「都市個性を生かした政策の推進」を挙げてございます。学都、健康都市、杜の都、中枢都市という市民が共有していると思われる四つの都市個性を発展させた形の四つの都市像を目指しまして、選ばれる魅力的な都市であり続けるよう進化し続けてまいりたいと考えてございます。この四

つの都市像を実現を牽引^{けんいん}いたします「4つの重点政策」、そして総合的に取り組んでまいります「分野別計画」、319になりました施策を考えているところでございます。

先程申し上げました市民の知恵あるいは力を結集していくことが重要でございますので、市民協働あるいはきめ細やかな地域政策を重視するといったところも今回の大きな特徴であると考えているところでございます。これに伴いまして計画といたしましては区別計画を大幅に拡充いたしまして、作業的には区役所を中心にこの区別計画の策定を進めてきたところでございます。新たに「区の将来ビジョン」を考えて区役所と地域の協働により、実現を推進してまいりたいと考えてございます。

また、厳しい時代状況に対応する「都市経営システムの変革」を進めることが重要であります。持続可能な財政基盤の確立あるいは職員組織による創造的な都市経営力が発揮できるように市役所の自己変革を進めてまいります。合わせまして、既存の都市インフラや公共施設に関します保全・活用重視の転換といったことを掲げまして、総合的なマネジメントの仕組みをつくり、これを推進してまいります。また、基本計画で定めました基本目標に関しまして実施計画において指標を定め、また、市民意識調査などを行いながら市民協働の手法を取り入れ適切な評価点検を行い、次年度予算への反映を努めるなど、総合計画の実効性確保の取組を推進してまいります。この点につきましては、前回もお願いを申し上げましたけれども、次年度から始まります実効性確保の取組におきまして、現在の審議会の皆様にご協力をいただきたいと考えておりますのでよろしくお願いしたいと存じます。

資料につきましては以上でございます。

大村虔一会長

ありがとうございます。

前回、答申素案につきましてご議論いただきまして、そこで出された意見あるいはご欠席の方からのご意見など反映し、今日の最終的な答申案をまとめていただいということでございます。

この最終の答申に向けて何かご意見のある方いらっしゃいますでしょうか。100ページを超えるペーパーを25分か20分くらいでご説明いただいたということですので、なかなか全体を見るのは大変と思いますが、いかがでしょうか。

水野紀子委員

非常に形式的なことなんですが、仙台市がこういう用語法を使ってらっしゃるかどうかわからないんですが、「障害者」という言葉です。39ページや45ページ、49ページ、50ページに障害者という言葉があるのですが、私はこの「害」という字が余り言葉的に好きではないので、このままでも良いと思うのですが、ただ一部には少なくともこの「害」という言葉を嫌がられる方がいらっしゃって、片仮名で書かれたり、あるいは石へんに損得の「得」という字（碍）、でも古い字なので使えないときには平仮名でというような動きがあることは知っております。仙台市として一律この書き方をしなければならぬというような縛りがあって、また、この「害」の字を使うということが慣

行であるんでしたら構わないのですけれども、一応そういう動きがあるということを認識された上で使われるか、あるいは平仮名に直されるかということを検討されてみたらと思います。

大村虔一会長

どうぞ。

梅内総合計画課長

ご指摘ありがとうございます。その点に関しましては、議会を始め内部でも議論があるところでございます。ただ、この計画の策定にあたりまして、同時期に改訂されております健康福祉系のプランでありますとか、そういったところを始め、現時点での改訂にあたりましてはこの「害」という文字を用いるということでございましたので、その点を確認の上、今回この用語法とさせていただきます。ただ、水野委員からご指摘ございましたように、表現等につきましては徐々に変わって来ているところもございますので、今回は他計画との関係を勘案しながら、この用語法で内部で検討してきたところでございます。また、そういった用語法のデリケートな部分がございますので、今後とも留意してまいりたいと思っております。

大村虔一会長

どうぞ、阿部委員。

阿部一彦委員

今のお話なんですけれども。昨年 1 月から障害者制度改革推進会議において議論されて、その表記についても議論の対象になったんですけれども、現状では平仮名にすることではなくて漢字のまま使っていき、さらに検討を続けていくということになっています。ただし、ご指摘のように、最初障害者制度改革推進本部ができたときには、内閣府では「害」を平仮名で使ったんですけれども、29 回以上議論をしたんですけれども、結果的には平仮名にするかどうか何も結論がでなくて、現在のところは漢字表記でしばらくやっていこうということで、障害者制度改革推進会議での検討も進んでいることを情報としてお伝えしておきます。

大村虔一会長

ありがとうございます。

他にございますか。

小野田泰明委員

非常に努力してまとめられて、良くなったと思います。

今まで全体の話ばかりしていたのですけれども、自分のプロフェッションを忘れておりまして、建築設計であり都市デザインという観点の表記が余り入っていないのは少し

気になります。具体的には、56、57ページの「魅力的で暮らしやすい都市づくり」のベースとして、やはりデザインは飾りではなく非常に大事なことでございますので、基本目標の最後あたりに、都市の創造性を強化して高度な目標を具現するために優れたアイデアを広く集め、市民参加もできるような調達方法というかプロセスについても創造的に配慮していくようなことを入れていただければと思います。具体的には設計協議ですとかプロポーザルですとか、そういうものをやることによって創造産業としてのデザインが育っていきましますし、一般市民もそういったものに巻き込まれて自分たちの想像性も高まっていきます。市としても、幅広くアイデアを調達できるということでございますので、これは是非入れていただけるとありがたいと思います。今更ではございますけれども、考慮いただければうれしいなと思います。

大村虔一会長

ありがとうございます。

梅内総合計画課長

ご指摘にございました点について、検討させていただきたいと思っております。

先程ご説明しましたけれども、前回クリエイティブ産業の関係で、間庭委員から建築設計ということは重要な要素だというご指摘がございまして、66ページのところに建設、建築設計についても加えたところでございます。また、先程ご指摘のありました都市のデザインに関しましても、54ページのところに景観に関する基本目標を掲げておりますが、こういったところは様々なその都市の魅力といった点で非常に重要と考えておりまして、こういったところにも基本目標として入れているところでございます。ただ今ご指摘があった点につきまして、こういった点をどうしていくかについて、調整していきたいと思っております。

大村虔一会長

他にございましょうか。どうぞ。

宮原育子福会長

確認なんですけど、今回こちらはずいぶん文言を平たくして分かりやすくなっていると思うんですけど、用語集のようなものは特には付けないという形でしょうか。

梅内総合計画課長

すみません。ご説明が漏れておりました。

用語集につきましては、今回の答申案でふれていなかったところなのですが、答申の内容が固まりました後、議案ですとかあるいは冊子にする段階で、これに関する用語集について必要だと思っております。いろいろな片仮名語だけではなく用語法につきましても市民の方に広くご理解いただけますように、用語集について冊子あるいは議案の段階で付けていきたいと考えております。

宮原育子副会長

ありがとうございました。

大村虔一会長

他にいかがでございましょうか。

柳井雅也委員

66ページの のところなんです、「付加価値の高い産業の振興」となっております。付加価値の意味というのは、主に価格とか、お金もうけとか、そういった意味合いで使われるときが多いんですよ。ただ、仙台市が目指すのは付加価値だけではないと思うんですよ。個性化とか個別性とか。後、仙台ならではのものが入ってきますので、例えば、このところは「個性的で付加価値の産業の振興」という形にしておいて、産業自体がまちの風格とかまちの雰囲気をつくっていく、醸し出していくことにもつながっていきえるような、そういった産業の育成というふうに位置付けておいたほうが、このクリエイティブ産業のとらえ方としては包括的だと思うんですね。

もう一つが63ページなんです、「人をひきつける仙台ブランドの創造」というところの丸の三つ目なんです、プロスポーツのところ「サッカー・野球・バスケットボール」と限定的に書いていますよね。で、この計画の性格から考えますと、将来新しいプロスポーツが参入してくる可能性も否定できません。プロレスはどうかかという話もありますけれども、そういった人たちからも指摘が出ないように、きちんとそういう配慮ということで「など」という言葉を入れておくなりしておいたほうが良いのではないかと思います。

以上、二点です。

大村虔一会長

どうもありがとうございました。

いかがですか。

梅内総合計画課長

ただいまのご指摘を踏まえまして、最後の調整について検討したいと思います。

大村虔一会長

他いかがでしょうか。

どうぞ。

岡本あき子委員

私から三点、訂正とかそういうことではないんですが、答申をするにあたってということで、お願いをしたいことがあります。

一つは、この中で前にもお話ししたかもしれませんが、地域活動、市民活動を支える上で、市民センターの役割のお話が出てきてまして、先日の公民館の審議会の中でちょっと不安の声もありましたので、実際にその計画に沿って、是非その拠点となる市民センターのあり方というものを関係部局とあるいは当事者の方々とより協議を重ねていただいて、スムーズにスタートができるように是非努力をお願いしたいと思っております。

後、進捗管理の部分で、最後の106ページ。「総合計画の推進」の中に「市民協働による評価・点検」という項目がございます。前の審議会でもご意見が出たと思いますが、つくっただけで終わりではなくて、これから実施計画ができて具体的に本当に方向性が合っているのか、あるいは途中で一部分見直しというのも当然ありうるので、この「市民協働による評価・点検」という部分については、答申をする際により強調して決して忘れることなく取り組んでいくということを伝えていただきたいと思います。

後もう一つは、これは冊子としてこういう形でまとめるのですが、三点目として見せ方なんです。最初に宮原さんから市民向けのフレーズでやっていったほうが、市民一人一人が自分のことだと分かるのではないかというご意見もありました。北九州市は松本零士さんとか、アニメの作家が多いまちというのも都市の売りとしてやっていることから、この将来の北九州市の都市像というのを漫画にして、北九州市がつくって市民に配布をされたんですね。部数は限定されるかもしれないんですが。そうすると、こういう比較的行政的な書物よりは、ペラペラとタイトルくらいはめくってくれる若い人がいたり、あるいは、難しい言葉は分からないけれども絵で見るとこんなまちができるんだなというのが伝わったりするのがありまして。例えば仙台市だったらクリエイティブ産業をもっていたり、デザインの分野をより強めようという、その仙台市としての売り、あるいは作家の方もたくさんいらっしゃると思うので、仙台市が売りになる見せ方もそこで何か使えることがあったらより伝わるのではないかと思いますので、是非そのできた計画を市民の皆様にご理解していただく、あるいは他の都市にご理解していただく意味で何か一工夫、仙台らしさというものを是非考えていただければなと思っております。

後、先程ウェブでとか、そういう場合には是非追加してほしいと思うのが、前回大草委員からのご発言があったと思いますが、仙台市が発祥だったり、あるいは、仙台市が持っている仙台発の技術とか、実は仙台ブランドなんだという。そういう、仙台市民も改めて分かる、「これって実は仙台の技術だったんだ」とか、「これは実は仙台の売りだったんだ」と思うような、せっかく仙台の地域資源を発掘しようとうたっているのに、そういうものもどこかで、見せるような工夫をしていただけると、私たち自身も改めて仙台に誇りをもって自分たち自身が作りだしたものをさらに高めていくことになると思うので、是非これをまとめ上げて終わりではなくて、これをさらに浸透するために一工夫を是非検討していただければと思います。

よろしくお願いします。

大村虔一会長

ありがとうございます。特に今のはよろしいですね。

いかがでしょうか。もしよろしければ、今まで出たような意見を最終的にどうするか

ということを事務局でご検討いただいて、最終的には私が確認をさせていただいて、取りまとめということにしたいと思っているのですが、よろしゅうございますか。

(はいの声あり)

大村虔一会長

どうぞよろしくお願いしたいと思います。

それでは、続いて、事務局からこの後の市長への答申のスケジュールについて、ご説明いただきたいと思います。

梅内総合計画課長

今後の答申までのスケジュールでございます。

先程会長のほうにご一任いただきましたので、先程のご意見をどのように反映させるかにつきまして会長とご相談をさせていただきたいと思います。

そして、答申自体は25日火曜日の11時からを予定しております。25日は会長がご公務で欠席でございますので、副会長兼都市の魅力部会部会長の宮原委員と、市民の暮らし部会部会長の小松委員から答申をいただく予定であります。

答申いただきまして、2月中旬の第1回定例会に議案として提案をしまいる予定でございます。

以上でございます。

大村虔一会長

今事務局からご説明がございましたように、当日私は別の会に先約が既にあって大変申し訳ないんですが、宮原副会長と小松部会長にお願いしたいと思います。

それでは本日の議論は以上でございますが、5時ぐらいまでまだ若干の時間がございますので、審議会を閉じるにあたって、皆さんから一言ずつご感想というかお話をいただきたいと思います。いわゆる答申そのものではなくてこの進め方なり、この後の話などについて何かございましたらどうぞお願いしたいと思います。

順番に回りましょうか。いつでも順番に回るとあいうえおの順からいくので今日は最後から行きましょうか。

それでは柳井先生からお願いします。

柳井雅也委員

分かりました。

最後だということと言わせていただきます。

個人的な感想としては、私は非常に楽しく、地域の将来や仙台の将来について考えるチャンスを与えていただいたということで非常に感謝しております。小さいころから私は仙台で生まれ育って一時期外に出ていましたけれども、是非ともそういういろいろな自分自身の経験も含めて、仙台のために役立つことができればという思いで委員会には

毎回全力で参加させていただきました。それでそのとき、最初に僕が気付いたというか、皆さんとお話をしていく中で気付いたことは、やはり横串を通す議論をきちんとやっておかないと、21世紀いろいろな、複層的なあるいは複合的な問題が出てきたときに、ほとんど対応できないだろうという危機意識がございました。したがって、一つの企画とかプランというものが実行されていく場合は、必ず二つ三つの領域が関わるような、そういったプランづくりということを構想していくということ。これを一つ自分で肝に銘じながらお話を進めていったように思います。

後もう一つは、こういう地方自治体では一般に弱いと言われているんですが、産業政策なんです。特に東北地方はこの産業政策については、どの自治体のこういった類の報告書を見ても弱いということで、やはり自前で食いぶちを稼げるような地域経営のあり方とか地域づくり。これはやっぱり考えていく必要があるだろうということで、最終的にはクリエイティブ産業であるとか、農商工連携あるいは六次産業化という形で修練していくわけなんですけれども、そういった点にも自分なりにがんばったつもりです。

後は三点目、これが最後になりますけれども、国際化についてです。今のうちからきちんとした対応を考えておかないと、仙台の人が仙台のまちを自由に歩けなくなってしまうという問題、あるいはせっかく仙台にポテンシャルティがあって外国とつながっていくとき、海外から来られた方と連携すれば、別に日本政府を通じて海外とつながっていなくても、個人対個人でもって海外とつながっていける。そういう仕組みづくりがどんどんできるわけですね。そういった意味では国際化の推進というものをきちんと考えていく必要があるんだということで、いろいろと意見を言わせていただきました。

本当にどうもありがとうございました。

以上でございます。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

それでは次に柳生委員。

柳生聡子委員

感想の前にちょっとまた意見を。さっき言いそびれてしまったので良いですか。

三点ほどなんですけどすぐ終わります。

55ページの4番の「風格ある景観の形成」のところで、もう少し市民力についてもふれたほうが良いのではないかと。やはり躍動するストリート空間をこれまでつくってきたのは市民の皆さんなので、それを支えていくという姿勢が一つあったほうが良いのかなと。法律のことばかり書いてあったものですから、その点についてふれてほしいなって思った点が一点。

それから、106ページの総合計画の今後の評価・点検のところで、やっぱり全くこの総合計画をつくっていないほうがまた最初からこれを一から読み直すというのは大変だと思うので、点検の際にこの委員の方が何名かずつでも、各部会から入っていたほうが、新しく点検する方とコミュニケーションなども取れてよろしいのではないかなと思います。

した。

後、三点目は先程の岡本委員のご指摘にありましたように、分かりやすいものをつくったら良いのではないかという意見で、私も非常に共感を覚えまして。前回の総合計画でもそうでしたが、概要版みたいなものも薄い冊子としてございましたよね。やっぱり市民の皆さんはまずはその概要版をご覧になると思うんですけども、その概要版にちょっと工夫をしたほうがよろしいのかなと思いました。何か視覚的に訴えるものであったり、重点を置いて力を入れた部分はちょっと強調するような形で、若い世代でもとっつきやすいような概要版に是非していただきたいなと思っております。

以上三点が意見で、感想としては、私もこのような会議は全く初めてで毎回毎回緊張していたんですけども、それと同時に皆さんの意見が、お一人お一人のご意見が次はどんな意見かなということですので楽しくもありました。自分の意見は本当につたなくて申し訳ない思いでいっぱいだったんですけども、大変勉強になる１年でした。

どうもありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。続きまして水野委員。

水野紀子委員

私もお礼を申し上げたいと思います。

まずこれだけのものをまとめられた、みんな好きなことを言うのをこれだけのものにまとめられた事務局のご尽力に心からお礼を申し上げたいと思います。

それから大変に和やかなこの会議を主宰された会長、部会の部会長にもお礼を申し上げたいと思います。

おかげさまで私も大変楽しく仕事をさせていただきました。寄与することは余りなかったんですけども、でも本当に仙台市が良いまちだと改めて思います。都会の良いところ、つまり、未来に向かって視野が開けていて自由で開放的になる、それが決して暗い孤独にならないような過去の財産というものをまだ十分に持っている。そういう意味では過去の良いところと未来志向の良いところと両方が持っている、都会のいいところと田舎のいいところが合体したような本当にいいまちだと改めて実感しております。

将来に向かっての構想をこれだけ魅力的なメンバーと一緒に話をする機会をもったことに感謝を申し上げます。

以上でございます。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

増田委員お願いいたします。

増田聡委員

何とかよくまとまったというのが最後の感想です。

ただ、どの細かい文章もそうなんですけれども、今日もいくつか修正なりコメントが付いています。それぞれこれを読む方、その後ろに、この言葉の裏にはもっと深い意味があって、そういうことをやってほしいと思っているのをこの一言にして組み込んでいくということはたくさんあるんだと思います。今日もこういう意見に対してはこういうことを考えて、こういう文章をつくって書き換えましたという説明は付いているんですけども、後々はこの文章しか知らないということになっていきますので。これを読んで実際に何をやっていくのかというのは、この審議会でもいろいろコメントも出ていましたし、読む人がこれに込めた思いというのがまた別途たくさんあるので、この同時に進んでいるそれぞれの分野の基本計画や実際の実施計画の中で、もう一度この文章から出てくる具体的なイメージなりプロジェクトなりアイデアというのは何なのかを考えながら、それぞれの現場で仕事をしていけたらなと思っております。

私は都市計画審議会のほうとも関係していますので、都市計画マスタープラン動き始めますので、それとこれとを踏まえてまちづくりのほうもまた展開していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

大村虔一会長

よろしくお願いいたします。

次は樋口委員いかがでしょうか。

樋口稔夫委員

今回参加しまして幅広い議論ができたということで、私としては勉強になりました。

それで、まずは財政とか人口減少がマイナスの社会構造になってきていますよね。そういった中でどう生きていくかという方向を定める一番大事な時期に総合計画審議会に参加しまして、一番大変なときだけでも、今後の方向を定める一番良い時期に参加できたなと思っております。

特に私たちの団体は市民力、今回期待されているわけですが、やっぱり市民力を使っていけないといろいろな財政とかいろいろなマイナスを埋めるには地元でやっぱり皆さんががんばるという時代が来たのかなと。特に区役所とか市民センターのそういう役割を強調していく、これはよく理解できますし、積極的にやはり寄与するようになっていく必要があると思っております。

特に市民に共感できるようなアピールをどうするかというのが、今後の総合計画を生かすために一番大事ななと思っております。

我々もできるだけそういうものに働くようにしながら、皆さんにがんばってもらうように努めていきたいなと思っているところです。

今回参加できまして本当にありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

針生委員いかがでございましょうか。

針生英一委員

私も大体毎年のように何らかの委員会に出させていただいて、こういう計画づくりのお手伝いをさせていただいているんですけど、私個人的には大変広くいろんな方々と議論できるので勉強になってありがたいなと思います。

私は今回企業の立場で出ておりますけれども、もう一つは企業だけではなくて市民活動の立場でもありました。部会は市民の暮らし部会のほうに入らせていただいたりして。まあそういう意味ではいろいろな広いところから意見を言えたと思いますけど。業界だとか団体の立場で参加していなかったのも、ある意味言いたいことが言えたかなと思っています。

まさにこういうビジョンというのはできて終わりではなくて、これからまさにスタートになりますので、私もこういった場で提言して終わりではなくて、企業の立場であるいは市民活動の立場で、こういったものを実践するということを求められていますので、その実践者として、これからも仙台市のために働いていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

庭野委員いかがでしょうか。

庭野賀津子委員

まずはこれだけのものをまとめられた事務局の皆様、また委員長を始め委員の皆様方に本当に感謝申し上げたいと思っています。

私はこれまで自分自身の専門領域に関係します、障害児教育とか児童福祉といった関連の委員会、審議会といったものには出させていただいておりますけれども、このような基本構想、基本計画を立てる総合計画という非常に大きな枠組みの中でいろいろ考えさせていただくというのは経験がないことでしたので、大変勉強させていただきました。私が勉強させていただくだけで、十分寄与できたのかどうか本当に申し訳ない思いでございますけれども。起草委員もさせていただきいろいろなことをこの機会に学ぶことができましたのは、本当に私にとって価値のあることだったなと思います。

今後この10年後に向けて、この計画がうまく生かされてより良い仙台となっていくことを心から祈っております。

どうもありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

それでは西澤委員お願いします。

西澤啓文委員

私も今おっしゃられた皆さんとご一緒なんですけれども、自分とは違った視点からのいろいろなご意見なり考え方というものを伺いさせていただくことで、目が開かれるような思いをしながらこの会議に参加をさせていただいて、ここまで来れたことを非常に感謝しております。

後は逆にそのことをこれで自分が終わりなのではなくて、やはり一市民として、この仙台が好きな人間として、市民の皆さんと一緒にいろいろなことをやっていくときに、この総合計画の基本構想なりこういうものをこうやって決めてきたとさっきのお話ありましたけれども、だからみんなでやりましょうというような、率先して自分も取り組んでいくようなことをやっていきたいと思いましたが、やっていくように努力をしていきたいと思っております。

ありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

西大立目委員お願いします。

西大立目祥子委員

すみません、感想の前に私も一つ。

55ページに「緑と水のネットワークの形成」というのがありますが、ここに少し農業の要素を入れられないのかなと思いました。せめて下から三つ目の丸に「花壇などのコミュニティガーデンづくり」とあるんですが、例えば花壇や農園とかちょっと実験的に農園をやってかなり成果が上がっているのはずいぶん分かってきているので、少しその辺を加えていただければ良いかなと思いました。

それから感想としては、1年の長きにわたりまして、事務局の皆様にはこれだけいろいろ、それぞれの立場からの意見をまとめていただいたことに感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

後は、多分これからは今までの手法や価値観やそういうものが大きく変わっていったって、多分誰も想像がつかないようなことが始まりつつあって、その中で行政の仕事というのも大きく変わっていくんだと思うんです。ですので、すごく舵取りが難しいと思いますし、私たち市民も恐らく今までのような、普段は黙っていてそれは違うと思いついたように意見を言うような市民ではなくて、やはり行政側も市民の側も成熟の時代に合わせたような変化というのを、自分たちの中でもそれを成し遂げていかなければいけないのかなと感じています。

私は市民の立場として、仙台のまちをやっぱりもっと魅力的にするために何ができるかなというのを考えたり、やっていきたいと思ったり、市の施策というものも恐らくさっき柳井先生が横串とおっしゃったんですけれども、一つのものを解決するために一つの部局だけが関わるのではなくて、恐らくプロジェクト型のような形でいろいろなことをやっていかないと解決できないような事態が多分出てくるんだと思うんですね。そ

のために力を合わせていければ良いかなと思います。

市の役割としては大きな絵を描くというのも一つあると思うんですけども、やはり限られた予算で市民の生活を豊かさでもって引っ張っていくためには、そこに住んでいる方々の一人一人がどういう思いでいて、どういう生活をそこでしていましてということがやっぱり基本になると思うので、そういうところに耳を傾けていただけるようなお役所であってほしいなと思います。

総合計画はこれで何となく一つまとまって、私は気楽に終わったって言っていただけるのかもしれないんですけども。やっぱりこれからが始まりなんだと思うので、そのために一緒にやっていければ良いかなと思います。

本当にどうもありがとうございました。

大村虔一会長

ありがとうございます。

それでは高野委員お願いいたします。

高野秀策委員

私も１年間この審議に関わらせていただきまして大変勉強になりまして、また事務局のご努力に心から感謝したいと思います。ありがとうございました。

農業の面で私は参加させていただいたと思っていますんですけども、最近は戸建ての住宅に住むよりもマンションに住む方が、高齢者の方はもちろん若い人もマンションに引っ越している。仙台もマンションがいっぱい建っていますので、これから人口減少時代になるときに、都会の生活の方々がもっと潤いのあるといいですか豊かな気持ちを持っていたくためには、農業とのふれあいといいですか、仙台の郊外には農地がいっぱいありますので、そういう体験をしたりふれあいをしたりすることによって、住み良い仙台の都会の生活ができると同時に、そういう豊かな気持ちを持っていいただける仙台市民の皆さんが増えていただきたいものだなという思いでございます。消費者と生産者の交流なんかも大事ですし、また今日もいろいろ出ましたけど農商工連携あるいは六次産業で、仙台でも付加価値のある農産物、仙台ブランドの農産物がこれからも我々も一生懸命作っていきたいとも思っておりますので。そういう意味で、農とふれあいのある仙台の都市がさらに拡充発展できるようにという思いで今日を迎えました。

以上でございます。

ありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございました。

では鈴木委員お願いします。

鈴木由美委員

１年間本当にこの審議会に、一市民として加わらせていただきまして本当にどうもあ

りがとうございました。

本当にひょんなことからこの審議会に関わるようになりまして、それも仙台市の10年先の計画を立てるということに関してお受けした当初はどういった形で進むのか、そしてどのような将来像ができるのかという非常に大きな不安とそれから小さな期待でこの会に関わらせていただきました。毎回やはり回を重ねるごとにそれぞれの骨格、それから細かなものができあがってきたときに、これだけの頭脳と時間と経費といろいろな方の努力をつぎ込んでこの計画ができあがって、これを市民の皆さんにこれから分かっていただいて、市民力というものを生かしながら10年先に向かって進んでいくんだということが、今の今日の時点になってもまだ市民力というのを生かすというこの審議会の中で話し合われたことに関して、本当に最後どうやって引き出していったら良いんだろうなというふうに考えているところが正直な感想です。なかなか一市民として、市報、それからいろいろな情報源がありますけれども、そういうものの中からこの10年先のこの計画を見たときに、本当に市民の皆さんがそれを自分たちの将来像のためにこうしていかなければならないんだということを自分の身に感じて置き換えて、感じていただけるものに是非事務局の皆さんにはこれからもまだまだがんばっていただかなければならない部分だと思っています。それが今までの苦労が是非報われるような形で、市民の皆さんに情報提供できて、それが10年後の素晴らしい仙台市の状況になっていけばなという期待を込めて、今日この審議会の最後に感想を述べさせていただきました。

それから蛇足なんですけど、最近T P Pの参加のことについていろいろとメディアとかそれから国の中でも議論されている部分があると思います。それでこの審議会が10年後の計画を立てましたけれども、あの加入によってはものすごく大きな形で変化することもあると思います。是非この最後のところの計画の推進のチェックの部分で、仙台市の状況に見合った形で、この10年後の計画ができるだけ将来像に向かった形で推進していけるように仙台市の皆さんにはお願いして最後にしたいと思います。

どうもありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

それでは佐竹委員お願いします。

佐竹久美子委員

始めに、1年間がんばってきた皆様方、本当にご苦労様でございました。

やっぱり10年先につながる計画ということで非常に重みを感じながら参加させていただいておりました。大変勉強もさせていただきましたし、非常に有意義な審議会であったと思っています。

今後この素晴らしい計画を財政的な制約がたくさんある中でやっていくことが非常に大変なこととは思いますが、是非事務局の皆様方、そしてこの審議会に参加した私たちもこれからも陰ながらやったり、力を注ぎながら進めていければ良いなと思っています。

どうもありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

小松委員お願いします。

小松洋吉委員

大変難しい時代といいますが、それから厳しい時代の計画づくりであったかと思えます。委員の皆さんの素晴らしい発想、考えにふれることができて大変ありがとうございました。

ちょっと個人的になりますが、私34年も仙台に勤務させていただいておりまして、実はそろそろどっかに行こうかと思っていたんですけれども、後10年仙台にいらしていただきたいと思えます。

本当に事務局の皆さん、大変ありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

それでは菊地委員お願いいたします。

菊地昭一委員

私ももちろん初めてこういう機会をいただいて、大変勉強させていただきました。

特に起草委員会の議論というのは、ここで作る議論よりももっと激しい議論されていたのかなと思うので、そういう意味では起草委員会の人たちにも感謝したいと思いますし、事務局大変だったと思いますし、会長、副会長もまとめるのが大変ではなかったかなと、そういう思いで1年間本当に勉強させていただいたというのが本音です。

ある意味今回、第1回定例会で議案として出たときに、私ども議員の立場でも議決をする立場として、しっかり議会として今度はチェックをしていくという立場でもあるので。その中で実はこの市役所の自己変革というのを私は非常に注目していて、ある意味では地方議会も自己変革をしないとものすごく厳しい目線が市民から私たちに注がれているのも重々承知なので、ある意味では地方議会がしっかり変革をする中で市役所の自己変革と併せて、人間性というものを保ちながら取り組んでいきたいと思えますので、大変勉強させていただいてありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

その次は小野田委員お願いします。

小野田泰明委員

僕は建築家なので、勝手なことをずいぶんメモをつくったりいろいろかき回してしま

いまして、それを温かく受け止めてきちんとした形にさせていただいた委員の先生方や事務局に改めて感謝を申し上げたいと思います。

先生方がおっしゃったように、市民力が位置付けられて市役所が自己改革を加速するとうたっている総合計画はそんなにないと思うんです。それは非常に素晴らしいことだなと思っておりますので、この先期待しております。

一言だけ言わせていただきたいのですが、この間横浜市の創造都市を牽引している非常に有名なプロデューサーに来ていただいて、学生に話をしてもらったんですけども、話をしたら10-BOXは素晴らしいと言っているんです。あれはあり得ないと。あれは横浜では絶対にできないと言っているんです。その人は創造都市横浜のいろいろなプロジェクトをやっている、日本でも有名な人なんですけれども、10-BOXは絶対に横浜でやれないと言っているんです。横浜は市民が市を余り信頼してないから、NPOとか市民の人たちがかなりいろいろなことを自発的にやって、それを市が受け止めるという回路があって、それと、もちろん市が企画して、その辺がうまくかみ合って緊張感を持ってやっていると。彼は10-BOXは非常に素晴らしいけど、でも市がそれを抱えてやっていたらその先をつくっていくのが非常に大変でしょうねと。逆に横浜は民間がやっているから、それを次のビジネスにつなげたりとか、それがまた市なり国と連携して次のスパイラルに乗って行けると。だから、逆に市が素晴らしいのでその先がなかなか見えにくいというところもあるのかなということを彼と話をしているうちに改めて感じました。それを先程も先生方がおっしゃっている、これからは市民の側の話だということとつながると思うのですが、このプロジェクトが今度は逆にNPOとかLLCとかプロの市民とか、そういう人たちをどうやって育てていくかと、そこに多分かかっているのではないかと思います。全部丸抱えするのではなくて、逆にいえばもう少し引いてみるとか任せてみるとか。今までの行政とそれに反対する一般市民と、上と下というのではなくて、横にいるプロ市民をどれくらい育てることができるかというところが課題で、それが今後の実行の中で粛々と位置付けられていくと良いなと思っております。

宮原先生が委員長をされている国際センター駅前の委員会で、東北大学が仙台市と一緒にやっているSSDという新しく大学がつくる市民塾みたいなところで塾生に発表させてプロ市民をつくっているんですけども、その塾生に代案を発表させたのですがなかなか面白くて、ああいうものが新しい市民力になるのかなと思っています。その中で活躍しているのがほとんど女性なんです。もうすごく優秀でかなりクリエイティブでかつプロの東京のコンサルタント顔負けの、非常にしっかりした提案をどんどんつくってくれるんです。やはりこの委員会にも女性の先生方がたくさん入っておられますし、非常に創造的な意見を言っていていただきますので、やっぱり女の人がきちんと社会参画して能力を発揮できる社会が必要ですが、まだ日本は全然なってないと思います。1か月間中国で教えていきましたが、中国は圧倒的に女の人が強くてすごい力を持って社会をリードしています。やはり日本はまだそういう社会にはなっていないから、人が減るけど人のポテンシャルをきちんと生かしていない。東京でやれと言っても働くところと住むところが相当離れていますし、なかなかいろいろな企業が入っていくのは大変ですけど、仙台市ならまだいろいろなことができ、仙台で子供を育てたいとなって日本

全国が少子化で苦しむ中で仙台だけ子供が増え、かつ女性がいきいきとしている社会というのは夢ではないと思うんです。

話は大きくなってしまいましたけれども、そういうところに向けて今後10年間この計画を実施する一つのパーツ、一市民としてがんばらなければいけないなということで、ちょっと気持ちを新たにしていこうところでございます。

今後ともよろしくお願いします。

大村虔一会長

ありがとうございます。

それでは岡本委員をお願いします。

岡本あき子委員

いろいろとありがとうございました。会長、副会長、それから各部長、起草委員の皆さん、それから何より当局の皆さんが本当に苦勞してこういう資料を全部用意してくださって、協議ができたことをとても感謝しています。

私もこの総合計画をつくるにあたって、本当に仙台らしさって何なんだろうというのを、改めて考える時間をたくさんいただきました。市民力という言葉ではみんな方向性が合っている。その中でそれぞれの皆さんの専門分野のご意見をいただくと、いろいろな視点があるんだなというのを改めて感じて、是非この計画をしっかりと市民の皆さんに伝えて、市民の皆さんと一緒に、本当に行動が伴う計画の実行につながっていけるように、私自身もできる部分は努力していきたいなと改めて思っています。

後もう一つ、各区の計画もやはり区役所の方々が主体になってつくってくださったということで、本当に個性がある意味、それぞれの区の良さが出た計画として、具体的になったのではないのかなというので、非常に期待を持っております。

私自身は10年後を見ると、人口は今から少し増えるけれども10年後は今より減るという前提で、かなり厳しいことも、ちょっと後ろ向きなこともあえて言わせていただきましたが、最終的に今日の数値を見て、今よりちょっとだけ増えるというのを最後に盛り込めたということで、ちょっとほっとして、あるいはそこに期待をかけて、さらに減らないようにいろいろな施策で努力をするということも大事だなということを改めて感じました。

本当に皆さんといろいろと協議できたことを感謝申し上げます。ありがとうございます。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

大草委員、よろしくお願いします。

大草芳江委員

自分は20代の委員として、今回この総合計画をつくるというプロセスに参画させてい

いただきました。やはりこういった機会をいただくことで、ある意味初めて10年後の仙台市がどうあるべきなのかというところをすごく考えるための責任も同時に与えていただいたことに、すごく感謝を申し上げます。

というのは、やはり日ごろから自分も含め、どんな人でもこの先どうなるんだろうとか、やっぱりより良く生きたいと思う気持ちを人は絶対持っていると思うんです。ただ、そういったものをどういうふうに形にすれば良いんだろうっていったときに、例えば現状認識がよく見えないとか、ではどういうものを生かそうと思ったときにそれが何なのかつかめないとか、また、そういったものをつかめないとか次どうしようというところがうまく整理整頓できないところがあると思うんですね。後、社会の中でいろいろな方、この審議会に参加されているいろいろな分野の方もそうですし、また、行政の方もいらっしゃると思うんですけど、なかなかそれぞれの立場の方がどういったことを考えているかというのは、やはり人と人とのコミュニケーションの中でないとなかなか疎遠なものがあるのかなと。

でも逆にいえば、今回こういった場面に自分も参加させていただくことによって、例えば市役所という、普通に言ったら何をどういうふうに考えているのかちょっと分からないというところが正直あるかとは思いますが。とはいえ、やっぱりこういったことをいろいろ考えていらっしゃるんだなということが伝わってきますし、また、立場で言えること言えないこともいろいろあるんだろうなということも、想像も含めながら感じることができました。

でも、やっぱりそういったことを認識した上で、だったら自分たちはこうしたいというところをぶつけ合っていくというプロセスが、これから特に社会が縮小化する中、自分たちが持っているポテンシャルを生かしながら市をつくっていく、まちをつくっていくという上では非常に重要なプロセスになると思っているので、今後は、自分はこういった形で参加させていただいたんですけど、より多くの人、若い人とかそういった人も含めて参加できるような場ができれば良いなというのをすごく感じました。

そういった意味ではすごく貴重な体験をありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございました。

それでは江成委員お願いいたします。

江成敬次郎委員

まずもう既にいろんな方からお話が出ていましたけれども、今回の答申案をおまとめいただきました会長、副会長及び事務局の皆さん、大変敬意を表したいと思います。

審議会の感想の前にですね、ちょっと答申案に関わるコメントを一つ言わせていただきたいんですが。実は私、環境アセスメントの審査会にも関わっておりまして、この答申案の中で盛られているミュージアム都市ということについて、アセスメントの審査会でも話題になりました。

若干アセスメントの中で、土地開発事業の中で、ミュージアム資源と位置付けられる

ようなものがなかなか保全できないというケースが出てきている訳ですね。そういったことで現在のアセスメントの制度ではちょっと限界という部分もあります。そういったことでアセスメントの審査会の委員が連名で実は市長宛に要請書を出しました。その中の一つにミュージアム資源の保全・活用ということについて是非仙台市も尽力していただきたいとお願いをいたしました。そういう意味で、この答申案の実施にあたって是非そういった視点も含めて努力していただければと思いました。

二つ目の審議会の感想ですけれども、いろいろな方が言われましたのでそれは重複しますので言いませんが、この中にも書かれておりますけれども、こういう計画を立てたときにその実施と進行管理といいますか、最近はPDCAという言葉がよく使われるわけですけれども。まあ環境分野では環境管理ということで、plan-do-check-actionというものを自分たちでやっていくということが基本になるんですが。どうも審議会の条例を見ますと、委員は答申が終了したときに解職されるということですので、planだけでdo-check-actionというのではないんだなと思っているんですけれども。まあ、進め方ということでは、意識調査をして評価などをしていくということが書かれてあります。ただ、大きな意味ではPDCAが10年の計画ですからプランがあって実行してチェックしてアクションっていう次のまた10年の計画のときに、それが生かされるということなんでしょうけれども、是非その間1年ごとの見直しということに加えて、例えば3年とか5年のスパンで中間見直しをすとか、あるいはチェックして必要なアクションをとるとかがやられると良いのではないかなと感じております。

私自身、実は前回の総合計画にも関わらせていただいたんですが、実はこの10年間そういうことは全くなかったと言って良いくらいだと思うんですね。他の分野でいろいろ、例えばアセスメントの審査会とかそういったところでは意識してやってきたつもりではいるんですけれども。私自身としてはこの総合計画のプランニングした一人の人間として、PDCAに関わる必要があるのではないかなということを若干感じております。先程の話ですと、少し何人かはこの委員会から出て協力すとか、そういったアイデアも出ておりましたので、細かいことはお任せしたいと思いますけれども、是非そういうことで、ここでの議論がそういう場にも生かされるような仕組みがあったほうが良いのではないかなということもちょっと感じました。

以上です。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

内田委員お願いします。

内田幸雄委員

まずは本当にありがとうございました、お世話になりました。

菅井先生は今日お休みですけれども、教育振興基本計画にも関わらせていただいて、副委員長をやらせていただきながら、こちらにも関わらせていただいたことが非常に、仙台というものを立体的に私自身は見る事ができまして、向こうでもこちらでも役に

立ちました。

これをつくっただけではなくて、皆さんおっしゃってるように、これからどう実現・実行していくのかということが大切だと思いますし、ここで主催した市民フォーラムでやったように、この間の日曜日に教育フォーラムという形で教育振興基本計画のほうでもフォーラムをやりまして、大筋で非常に良いというご了解をいただきながら、それを今度、生涯学習という全体の枠組みの中で、どう生かしていくのかなというのが大きな課題だと思っております。

その大きな課題だという枠組みの中でこう見ていったときに、このとおりにいったら素晴らしいですね。そしてこのとおりにいくと素晴らしくて、その一方で「恩寵の濃いところ、またその影も濃し」と言いまして、スポットライトがぼんと当たるところは後ろにできる影も濃いんですね。それでこの蛍光灯のようなぼわっという光のところというのは、下の影が薄くてぼわっとしています。何が言いたいのかと言いますと、私自身は社会福祉士という国家資格で仕事をしていて、例えば成年後見人を17、18人やっておりますが、その中の10人は、県内全体ありますけれども、市町村長申し立てですね。そういった意味で虐待というところ、権利を侵害されているという方々がものすごく多い。それから弁護士と我々社会福祉士でNPO法人宮城福祉オンブズネット「エール」というものを運営させてもらっておりますけれども、そこにも毎日のように虐待の相談がきます。県内全体から地域包括支援センターの職員あるいは市町村の職員から、権利侵害ということについての相談がきます。また、仙台でいえば児童相談所の保護所が今満員ですね。そういう意味では子供たちの虐待も毎日数限りなく起こっている。この計画が本当に進行していったら住みやすいまち仙台が実現することを願うわけですが、その影でこういうものが出てこないように。なかなかこうマイノリティなのか、数が少ないからなのか、こういったところに直接的な文言で入りづらい言葉だからこそ余計に気になるのかもしれませんが、10年後児童相談所はからっぽで一時保護所は全然人がいなくてうれしい悲鳴だとか、そんなことができれば良いなということを願いながら、この計画が実行されていくことを一緒に関わっていきたいなと思っております。

本当にありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

次に石川委員をお願いします。

石川建治委員

最初に会長、副会長を始め、委員の皆さんに感謝申し上げます。とっても刺激的な委員会、審議会だったと思っております。そして、また30人もの強烈な個性を持った方たちが、その個性を生かして発言するもんですから、これどうやってまとまっていくのかなと思っておりましたが、事務局を担った職員の皆さんが最も苦勞されたんだろうと思いますが、しっかりと答申をまとめていただきましたことに心から感謝と敬意をいたします。ありがとうございました。

私的には子供っぽい表現ですけれども、わくわくドキドキの15か月間というか、そんな感じでした。議会人として直接そのまちづくりの長期計画の策定に携われるという喜びといたしますか、それとその期待。その一方で裏返しの、本当にそういったものをつくり、そしてまた、それに責任を持てるのかという、そういうその不安というのがあって、ドキドキしておりました。この15か月間非常に楽しかったです。

この審議会もそうですけど、各区の説明会、意見交換会、それから市民フォーラム、できる限り参加をしてきましたけれども、そういったことも含めて、非常に積極的に個人的には関わることができたのかなと思っております。

ただ、今回の答申ができたからということで、これ一丁上がりという気持ちがなくて、逆にこれからのわくわくドキドキがまだ続くのかなという気がしています。答申はあくまでもスタート。これからの10年間の仙台のまちづくりをどうしていくのかということについて、是非私自身も責任を感じつつ、しっかりと今後10年間市民に喜ばれるような仙台市にできれば良いなと思っていて、もっともっと勉強してこれからも市民のために働かなければということが私の感想です。

ありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございました。

それでは阿部委員。

阿部一彦委員

私も個別計画には関わったことがあるんですけども、総合的に様々な委員の方々からのご意見を基に立体的に考えていくということになるんでしょうか、基本構想・基本計画に関わらせていただいて、本当にありがたく思います。

今、地域主権とか地方分権という言葉もあるように、委員の皆様からのお話でもありましたように、仙台らしさというのが問われていくことだと思います。そのとき、仙台らしさに責任を持つのは市民一人一人、市民力であるということを再確認しますとともに、今時代が変わっていく、社会が変わっていくのもまた事実であり、成熟社会を迎える方向性が委員の皆様と議論の中で出てきている。ただ、この基本構想・基本計画をどう活用していくかということ。10年間で変わっていくそれぞれ社会の流れ、時代の変遷とともにそれぞれ10年間で活用の仕方が大事なのではないかと思います。

個別計画に関わってもそう思うんですけども、よく計画は素晴らしいんだけどねって多くの方から言われます。でも、その計画はこれからの有り様なので、それをどう活用していくかっていうところの、委員の皆様そして市民一人一人がそのような考え方を持つようにこの計画を見て思っただけなのが大事なのではないかと思います。

そして、この中で私は障害者福祉高齢の方々の視点ということを意識して参加させていただきました。これからの支え合いの社会というものの支え手に、高齢の方もですけども障害があっても支える市民であるということも、この中に貫かれていることだと思いますし、本当に政令指定都市仙台市、特別自治市という構想もあるのかともお聞き

しましたけれども、やっぱり仙台らしさのための素材がここにあるのではないかと思います。

10年間この活用ということで、多くの委員の方々それから市民の方々がどう活用していくか、その素材がここにありますよということからのスタートなのかなと思いながら、これも私たちの使い勝手良いように自分たち考えてやっていきたいと思っているところです。

どうもありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございました。お待たせいたしました。

いつも最初なので今日は一番後ろですけど、足立委員お願いいたします。

足立千佳子委員

本当に長い期間、皆様どうもありがとうございました。大変勉強になりましたし、一市民としてこの計画づくりに関わったことは大変うれしく、また、大変貴重な体験だったと思っています。

今後、どうしていくかと委員の先生方多くから出ておりましたけれども、やはり総合計画がいろいろ市民協働による実効性確保などということも入っておりますけれども、まちづくりNPOとしてもやっぱりこれを勉強する会が必要なのかなという気もしております、どういう形でするのは分かりませんが、そういうこともやっていく立場でずっとここに私がいたのかなという、今頃になって気付いた次第でございます。

また、今後も皆様と一緒に勉強して、よりよい仙台市になるように少しでもお役に立てたらと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございました。

宮原副会長お願いいたします。

宮原育子副会長

どうも皆様、審議会の委員の皆様、そして事務局の皆様、本当にお世話になりました。

今日最後ですと言われて、何かこう始まった当初は、ああ、まだまだ先が長いなと思っていたんですが、今日最後を迎えるというので、えっ、もうという感じでございました。

ただ、今日こうやってできたものを拝見しながら皆さんと最後の意見を交わさせていただいて、ご意見をお伺いしながらですね、ああやっぱりこのメンバーでいろいろなことを大切なことを漏らさずいろいろ盛り込めたことはとても良かったなと思います。それでまた事務局の皆さんも、委員の皆さんが繰り出すサーブやスパイクを一生懸命拾いながら計画の方へと導いてくださったというのは大変素晴らしいことだったと思います。

今回の計画の中でも、市役所の自己変革ということをも明記されておりますけれども、

私はここの審議会での総合計画作成の過程の中で、特に事務局の皆さんたちがいろいろなトライを、市民フォーラムにしましてもいろいろなトライをされた中でもう既に変革が始まっていて、ある意味次世代の公務員の姿といいますか、そういうところを少し垣間見せていただいたような気がして、仙台市は一步先に進んだかなという思いを持っております。

そういう中で、本当に大変な時代の中で前向きな計画を市民の方に提示できるというのは、仙台市は本当に素晴らしいことだと思います。そのこともやっぱり感謝しつつ、大事にこの計画を進めていくことが重要なのかなと思いました。特に皆さんがおっしゃっていますが、仙台らしさ、個性を明らかにしていくということ、これもやはり仙台市の決意表明、皆さん市民の決意表明だと思いますし、それから創造的な産業を自分たちでもつくりだしていくということ、この決意も私は大変に重要なことだと思っています。

そういった中でこの10年の中でやっぱり考えていかなければならないのは、学都仙台というもう一つの顔を仙台が持っていて、ずっとこれはきているんですけども、やはり少子化の中で学都の部分の学生さんたちの存在というのが、これからある種市民力にもこういう私たちの市民生活の中にもいろいろな影響が出てくるのではないかと考えております。

今、滋賀県に大学の移転の計画がありまして。滋賀県に入っていた大学がやはり今学生さんがどうしても数が少なくなってきており、大学間競争のためにもっと知名度の高い大阪や京都へ移転をする。そうすると今まで滋賀県では移転してしまうために、1万2000人ぐらいの学生さんたちが移動してしまう。そういうことになってしまうと、やはりその大学のある県の中の市は大きな影響を受けざるを得ないわけですよね。本当にそういう時代になってきている。だから、そういう意味でも、仙台がしっかりと魅力ある、そしていろいろな方たちに選ばれていく一方で、住むことにも選ばれていく。それから学ぶことにも選ばれていくというような形で、やっぱり強みを持っていくということも意識していったら良いのではないかなと思いました。

その中で、私も大学に職を置いている一人として、学生共々良いまちにしていく中で、いろいろなことを皆さんとやっていきたいと思いました。

以上です。

大村虔一会長

どうもありがとうございました。

最後に僕ですが、何より委員の皆様、二つの部会の部会長の方々、それから起草委員会の皆様にサポートしていただいて、一応無事に答申ができあがったということは大変うれしく思っております。

前回の審議会の後も本当に今日もらった意見をまとめるんだろうかと思って事務局を心配しておりましたが、今日のようなものができあがったということで大変感謝しております。

それから、宮原先生にはずいぶんお世話になりまして、どうもありがとうございます。

僕は割にこういう答申をつくったりすることに何度も携わったことがありますけれど

も、今までのこういう計画は、どんなにその自治体が人口が減っている状況であってもこの何年か後には人口は増えるということを前提にして、実態に合わない計画をつくる。それはおかしいのではないかとを何度も申し上げるんだけど、そういう計画をつくるのが20世紀のごく一般的なあり方だったんですね。それに対しておかしいおかしいともう何十年か言ってるんですけど。今回初めてそれをはっきり認識して、減るものは減ると。日本の人口が1世代ぐらいの間に8割ぐらいになって、特に15歳以下の人は半分になる。今より半分になるというんですから、これは国全体にとんでもない影響がある。そういう中で仙台はどうなるのか。仙台が今の状況では、この間の国勢調査の結果を基に推計をすると、そういう中では珍しい減らない側のまちなんですね。それで仙台が減らないからそれは良いと言っているかということ、秋田、青森、山形、岩手あたりは相当減るわけでありますから、そういうまわりの県の中で期待されることがとても大きいまちになっていくという状況になります。その中でどういう位置付けをもって、どんなふうに地域のまわりの人たちと協力して、あそこは良いまちだって皆に言われるようなものになっていくかというのが多分大きなテーマだろうと。

それで、減ると言っただけで首をうなだれるのではなくて、そういう中で皆が元気に生きていけて、あそこは良いまちだ、楽しいと言われるようなまちをどうつくるかというのが、今回の基本的な視点だったと思うんですね。うはうは喜ぶような話はあんまりないけれども、市民力というのをキーワードにして、行政も変わるし、場合によっては議会も変わらなければいけないという時代がこれから起きてくるだろうと思いますが、そういう大きな骨組みについての計画というのをつくれたのではないかと。行政のシステムがどう変わるかというようなことは、はっきりはしていないわけですが、変わっていくとしている。そして、先程皆さんからお話があったように、パブコメを取ったりする仕方もいろいろな市民フォーラムを始め、いろいろなことで直接皆に聴くというやり方をしているし、区の計画もかなりあちこちの区で皆さんから意見を聞いているようであります。本来であればもっともっと聴かなければいけないと思うんだけど、まず第一歩を踏み出したということでは大変大きなことではなかったかなと思います。

事務局もこれからは大変なんですけれども、この計画ができた背景、先程の人口の背景は大体はつきり人に示せるようになったと思うんですが、なぜこういう案になったのかというのは人に説明しないと分からないところがいっぱいあると思うんですね。そういう資料を是非広報活動としてやっていただいて、なるほどそういうことなのかと。自分たちもがんばらなければいけないなという思いを植えつけられることができるかどうか、この計画のうまくいったかどうかということにつながると思っておりますので、大変お忙しかったことを労わなければいけない日なんですけど、今一段ご努力をお願いしたいと思います。

それから、我々は委員会としてはこれで終わるわけでございます。職を解かれますので。ですが、先程いろいろな方からお話がありましたように、特に江成先生が言うように、この後の仕事というのが取り分け大事でございます。中には仙台市が来年度からの計画の推進、評価に直接関わってくださる方を準備するというので、この中からも関わっていただく方が出てくると思うんですが、その方には是非がんばっていた

だきたいと思いますが。関わらなくても、市民力でまちをつくるというのは、市民がNPOや何かでこのテーマがうまくいっているかどうかというのをきちんと見て、これは違うぞ、もっとこうがんばらなければだめだぞというのを市に言ったりすることで、市民力というのは本当は発揮されるのではないかと考えておりました。そうしたかっ達なNPO活動がこの後推進する、動いていく、そうすることによってコラボレーションの仕方だとか、そういうことが具体的に組みあがっていくのではないかなと考えております。そういうことでこの答申の将来の進み方について、職に解かれたからといって立ち入らないというのではなくて、是非関心を持っていただいて、ここのところはどうも違っているのではないかなというようなことがあったら皆で発言をしていくというような、そういう自由な雰囲気をつくって、市民力を強めていくというのがテーマだろうと考えております。

この短い期間、僕はもうちょっと時間が欲しかったと思うんですけども、短い期間にやらなければいけないと思っていたことを、一応ワンセット全部やったんですね。すごい忙しかった。事務局の方々、あるいは委員の皆様方のご努力、ご協力に感謝しまして、この委員会を終わりたいと思います。

どうも本当にありがとうございました。

(2) その他

大村虔一会長

それでは事務局からは大体5時に終わるようにということでしたが、皆さんの最後の話をあんまり途中で切るのは難しゅうございましたので、5時20分になってしまいました。20分オーバーでございます。

それで一応これで終わります、事務局に何かございますか。

どうぞ。

山内企画調整局長

それでは、本日は最後の審議会ということでございますので、事務局を代表いたしまして一言ご挨拶させていただきます。

委員の皆様には一昨年の10月から、およそ1年3か月という長期間にわたりまして、審議会、起草委員会、部会、市民フォーラムなど全部で20回以上、休日夜間に及ぶ過密なスケジュールの中、熱心にご議論ご参加をいただきまして、本当にありがとうございました。

ただいまのいろいろなご感想の中にございましたけれども、本当に先が見えにくくて人口減少を始め厳しい時代環境が展望される中での計画づくりという、非常に難題でございましたけれども、皆様方の熱心なご議論によりまして、厳しい時代を乗り越えて仙台の未来に希望をつなぐような新しい目標、そして施策の方向を取りまとめていただくことができたものと考えております。

私どもも、本当にこれまで策定を目指していろいろ取り組んできているところでございますけれども、当然、計画策定でゴールということではございませんで、今、皆様方

からいただいたように、これからが出発点と認識してございます。そういった観点に立ちまして、この策定と同時並行で実施計画の策定作業を進めておりますし、また個別のテーマにつきましても、特に新しい市民協働とかいろいろなテーマにつきましては、組織横断的により具体的な対応をどうしていくかということも検討を始めております。また、こういった目標につきまして、その市民の皆さんと共に共有して共感をいただいて計画を進めていくことが極めて肝要でございますので、その分かりやすいパンフレットとか、そういったつくりにつきましても一生懸命取り組んでまいりたいと思っております。

皆様方には1月25日の答申をもちまして、この審議会自体は解散ということになりますけれども、来年度からの市民協働による計画の評価点検、これに際しましてはまたご参加いただくことがいろいろとあるかと思えますし、それ以外のいろいろな関連でもご協力を賜ることがあるかと思えますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様方のこれまでの多大なご協力に対しまして、改めて感謝を申し上げまして私からのご挨拶とさせていただきます。

本当にどうもありがとうございました。

3 閉会

大村虔一会長

他に事務局からございますか。

それではなければ以上をもちまして、仙台市総合計画審議会としての議論を終了することといたします。

本当にお疲れ様でございました。